

●社会課題プロジェクト《ビジネス編》2/14～3/15 全5回

「町ににぎわいを生み出す」を目標に掲げ、「ビジネスとは何か」を学び、北陸新幹線開業イベントで「ビジネスで稼ぐ」を実践したプロジェクトです。

これまで「お金を稼ぐ」ことを身近に感じていなかった子どもたちですが、授業を受けた後にはお店の求人広告に興味を持ったり、「売れる工夫」という視点で商品や陳列棚を見たりするようになったと保護者の方からお話をいただきました。

ビジネス編で扱う商品は、新庄・大谷原のサツマイモで作ったお菓子。イベントに訪れた人たちに美浜のよさを伝えることも重要ポイントだったので、小学6年生代表7人は新庄の「わいわい楽舎」を訪れ、生産者の方々にインタビューも実施しました。

子どもたちはそれぞれの授業時間だけでなく、オープンスペースや休日の時間も使って制作を行う等実践に向けて、とても大きな熱量を感じました。



↑授業でビジネスを学ぶ



↑新庄へ現地調査



↑商品を丁寧に袋詰め



↑PRチラシの制作にも力が入る

●北陸新幹線敦賀開業イベントで「サンマーケット」を実施

社会課題プロジェクト《ビジネス編》の集大成！

社会課題プロジェクト《ビジネス編》の実践の場は3月16日に開催された「行こうよ!おいでよ!美浜駅つながるフェスタ」。子どもたちは大谷原のサツマイモを使って、小学生はサツマイモチップス(2種)、中学生は焼き芋の販売に挑戦しました。

お店の名前は「サンマーケット」で子どもたちは手作り看板を持って大きな声で呼び込みをしたり、笑

顔を丁寧な接客をしたり、積極的に会場整理をしたりととても柔軟な対応で「手作りお菓子で利益を生み出す」「自分たちの想いを届ける」を実践していました。

購入していただいた方には、サンキューカードを記入してもらい、たくさんの「ありがとう」を届けていただきました。



↑元気に対応する子どもたち



↑販売開始から列ができる



↑大谷原の紹介やサンキューカード



↑大谷原の紹介やサンキューカード

●令和6年度の予定

★放課後教室サン

水曜・金曜

小学生の部

午後5時30分～午後7時

定員：各15人

中学生の部

午後7時30分～午後9時

定員：各10人

★オープンスペース

火曜

午後4時～午後6時

※どなたでも利用可能です

New 公設塾・高校生
生バージョンが始まります。
(7月開塾予定)

まだ間に合います！

放課後教室サン 小学生の部
定員まで若干名の余裕があります。興味のある方は、まちづくり推進課までお問い合わせください。

☎ 32・6701

instagram、Facebook においても活動の様子を発信しています！！
フォロー・応援よろしくお願いします。



Instagram
はこちら



Facebook
はこちら

みはまシナプスプロジェクト 活動報告



VOL.2

令和5年10月25日に開塾した美浜町公設塾「放課後教室サン」では、約5カ月の間に子どもたちの輝く笑顔や成長の場面にたくさん出会うことができました。今月号では、令和6年1月から3月の活動をご紹介します。(令和5年10月から12月の活動は、広報みはま2月号を参照) 子どもの「学びと挑戦」に大人も関わり、にぎわいの芽がムクムク成長中！

●テーマ型授業《仕事編・金融編(特別授業)》

テーマ授業の内容

・仕事編(1/17～2/9 全4回)

仕事とは何か、なぜ人は働くのかを学び、仕事ライフワーク体験、ゲストの仕事観を取材する新聞記者体験を実施しました。

子どもたちは職業マップを見て、世の中にある仕事の数と種類にとっても驚いていました。「大人になったらきっと自分も仕事をしているのだろう」という漠然とした思いから働く意味を知り、大人の人生観や体験を通して未来の選択肢の広がりワクワクしたと思います。



↑職業マップを囲む子どもたち



↑漁師と猟師をされている足立修一さんの仕事観を聞く



↑大人も参加できた特別授業

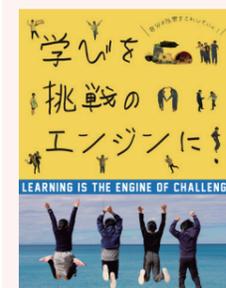


↑楽しくて3時間があっという間

・金融編(3/20 1回)

金融編(1回)を通して、職業・収入・支出・貯金・投資・時代を見通す重要性を体感しました。

選んだ職業によって毎月の収入に振れ幅があったり、世の中の動きによって投資先に大きな変化が訪れたりドキドキの連続！何を優先し、どう選択していくのか、自分の力を信じ、自ら考え決断していく大切さを子どもも大人も楽しみながら学んだ3時間でした。



★左記から映像・特設サイトを
ご覧いただけます。
映像：YouTube
特設サイト：Web

①「放課後教室サン」のロゴが完成！
子どもたちの探究心をかき立てながら、人とのつながりを広げ、子どもの未来を明るく輝くものにしていきたい。また、子ども、大人、世界の3者が交わり、新たなひらめきが生まれる世界観を表現しました。
②ポスター・パンフレット・映像・特設サイトが完成！
令和5年度の塾生とともにポスター・パンフレット・映像を制作しました。美浜の子どもたちの躍動感・学びに対する姿勢が詰まっています。
また、「放課後教室サン」の取り組みを始め、美浜の「学びと挑戦」を発信する特設サイトも始動しています。
今後、これらの媒体を有効に活用し、美浜町が目指す「学びと挑戦」を伝えていきます。



●町が目指すにぎわいのテーマの1つ「一人づくり」
「学びと挑戦を育む」を見える形に！
①「放課後教室サン」のロゴが完成！

子どもたちの探究心をかき立てながら、人とのつながりを広げ、子どもの未来を明るく輝くものにしていく

↓堂々とした演技を見せる子ども役者



**凛々しく舞い、奉納
早瀬子供歌舞伎**

5月3日に、日吉神社（早瀬）で山王祭礼が行われ、町の無形民俗文化財の「子供歌舞伎」が奉納されました。当日は、午前8時から曳山が区内を巡行。日吉神社前に着くと、化粧を施しきらびやかな衣装をまとった子ども役者による「寿式三番叟」が上演されました。凛とした子ども役者の演技に、観客からは盛大な拍手やおひねりが送られました。（関連第2頁）

↓県の無形民俗文化財に指定されている「王の舞」



**5年ぶりに全神事が執り行われた
弥美神社例大祭**

5月1日に、弥美神社（宮代）の例大祭が同神社で行われました。今年の例大祭は王の舞や獅子舞の他、コロナ禍で縮小されていた幣押しや浦安の舞等の全ての神事が執り行われました。当日は、迫力のある幣の押し合いや優雅な舞等が披露され、境内は大勢の観客で賑わっていました。

↓漂着したごみを拾い集める参加者たち



**美しい砂浜を守るために
美しい浜プロジェクトin水晶浜**

4月21日に、美しい浜プロジェクトが水晶浜で開催されました。このイベントは、町が取り組む美しい浜プロジェクトの令和6年度第1弾として開催され、竹波区民や企業、ボランティア、みはま応援クルー等、約200人が参加しました。参加者たちは、全長450mの海岸を清掃し、漂着したプラスチック等、約25㎡（軽トラック約34台分）を収集しました。



↑清掃開始前



↑清掃終了後

↓会場内の徳賞寺を訪れ、粟谷正光氏（雅号：大雲道人）（左）のたるま絵を鑑賞した杉本達治福井県知事（右）



↓アイドルグループ「さくらいと」によるステージイベント



**歴史のロマンを感じて
国吉城まつり**

5月5日に、国吉城まつりが若狭国吉城歴史資料館周辺（佐柿）で行われました。この催しは、国吉城とその周辺地域の歴史や自然を楽しんでもらおうと佐柿区や（一社）佐柿国吉100年プラン推進委員会等が開催したものです。当日は、ステージイベントや甲冑体験の他、国吉城歴史散策等が行われ、多くの来場者で賑わいました。

↓5年ぶりに行われた神輿渡御で階段を担ぎ上げる担ぎ手



**五穀豊穡を願って
織田神社例大祭**

5月11日に、織田神社（佐田）の例大祭が同神社で行われました。近年の例大祭は、コロナ禍で一部神事が縮小されていましたが、5年ぶりに全ての神事が執り行われました。当日は、小学生による「王の舞」と「浦安の舞」が堂々と披露された他、迫力ある神輿渡御が行われ、訪れた観客からは、歓声が湧いていました。

↓久々子湖沿いのごみを拾う参加者たち



**三方五湖の環境を守る
三方五湖一斉清掃**

4月21日に、三方五湖一斉清掃が行われました。この清掃活動は、三方五湖の環境と景観の保全を目的に、三方五湖保全対策協議会が主催したもので、町内の団体や企業から約200人が参加しました。参加者は、各々の持ち場に分かれ、久々子湖や日向湖の周辺を清掃し、プラスチックごみや空き缶等、約11㎡（軽トラック約15台分）を収集しました。

↓優勝報告に訪れた町内在住の美方高校ボート部の選手たち



**全国の舞台で大活躍
全国高校選抜ローイング大会
優勝報告会**

4月18日に、第35回全国高校選抜ローイング大会の優勝報告会が役場で行われました。同大会は、3月下旬に静岡県浜松市で行われたもので美方高校ボート部が男女舵手付きクォドルプルで優勝、女子シングルスカルで準優勝を収めました。報告会で選手たちは、レースの様子と入賞の喜び、次大会に向けての抱負を力強く伝えていました。



**まちウォッチング
atching**

田邊 義郎氏 旭日単光章を受章

長 年にわたりローイング競技に携わり競技力向上に貢献されたことが称えられ、5月14日に、田邊義郎氏(久々子)が旭日単光章(スポーツ振興功労)を受章されました。

同日、文部科学大臣より勲記勲章の伝達を受け、引き続き皇居へ参内し、天皇陛下に拝調の栄を賜りました。

田邊氏は、昭和43年の福井国体出場後、美浜ローイングクラブを設立し、多くの仲間と活動をされてきました。また、現在は福井県ローイング協会の副会長を務めています。



田邊 義郎氏 (75)
(久々子)

として幹である監督・選手を支えています。ローイング競技の町美浜がますます盛んになれば嬉しいですし」と話されていました。

主に、競技の普及や技術力の向上に取り組み、昨年開催された「かごしま国体」では、福井県が競技別で史上初となる8連覇達成にも尽力されました。

受章について、田邊氏は「受章すると聞いたときは驚きました。本当に名誉なことだと思います。国体が開催された久々子湖は、中学校、高校、実業団等のローイングの拠点となつています。早朝・夕方練習する監督・選手の頑張りは、頼もしく、たくましく、日々成長するその姿やレースを見るたびに感動してきました。これからも根っここの一部分

大規模災害発生時の災害廃棄物処理に備えて 「災害廃棄物等の処理に関する基本協定」を締結

■お問い合わせ先
町住民環境課(担当:浜野利彦)
☎32-6703



↑ 調印を交わした戸嶋町長(右)と米澤敦賀市長(右から2番目)と大栄環境株式会社金子社長(左から2番目)と大仲常務取締役(左)

4 月18日に、敦賀市役所で一般廃棄物を共同で処理する敦賀市と共に大規模災害時に備え、廃棄物処理会社の大栄環境株式会社(大阪府和泉市)と「災害廃棄物等の処理に関する基本協定」を締結しました。

協定では、地震や風水害等で災害廃棄物が発生し、町や近隣自治体で処理しきれなくなった場合、同社が撤去や収集運搬、処分を行い、早期復旧復興につなげるための支援や不測の事態に備えて日頃から情報共有を図っていくことを目的としています。

美浜町と敦賀市は、災害が

発生した際、敦賀市清掃センター(柳川)で災害廃棄物の処理を行います。処理が困難となった場合、同社に協力を要請することとなります。

同社は、全国の自治体と同様の協定を結んでおり、本町は全国で178例目、県内では、小浜市や若狭町等に次いで9市町目となりました。

協定締結式で、戸嶋町長は「昨今自然災害が頻発しており、これに備えるための防災減災対策を行ってはいけるが、万が一、被災した場合に復旧復興のため円滑な取り組みは非常に重要である。今回協定を締結させていただき、まさかの時に復旧復興を迅速に行えることを大いに期待している」と述べ、大栄環境(株)金子文雄社長は「災害初動時は大量に発生したが、れきを迅速、適切に処理し、インフラを復旧させることが不可欠であり、その重要な役割をグループの総力を挙げてお手伝いした」と述べていました。

令和6年度「子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」 めめたんごの会 文部科学大臣表彰を受賞

■お問い合わせ先
町生涯学習推進課 図書館
(担当:石井)☎32-0083



↑ 戸嶋町長(右)と加藤教育長(左)に受賞報告をする野瀬代表(右から2番目)と山口副代表(左から2番目)

4 月23日に、令和6年度「子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞された美浜東小学校読書ボランティア「めめたんごの会」の野瀬恵美子代表と山口萬喜副代表が、戸嶋町長へ報告するため来庁されました。

今回のめめたんごの会は、長期的な活動実績があること、絵本や紙芝居の読み聞かせの他紙芝居の製作や民話朗読など多彩な活動を行っていることが評価されました。

代表の野瀬さんは「子どもたちとつながることがやりがいとなっている。これからも活動を続け、30周年を迎えられるように頑張っていきたい。」と喜びを町長に伝えていました。また、町長からは「美浜東小学校を中心にボランティアとして、平成14年から長きにわたり活動を続けていただいていることはとてもありがたい。そのような団体が評価をされ表彰を受けたことについても嬉しく思っている。これからも子どもたちへの読み聞かせ等もぜひ、続けていただき、子どもたちの育成にお力添えをいただきたい」と称えています。

令和5年度「消防団地域貢献表彰」 美浜消防団 総務大臣表彰を受賞

■お問い合わせ先
町総務課(担当:今安)
☎32-6700



↑ 戸嶋町長(左)と西村副町長(右)に受賞を報告をする石丸団長(左から2番目)と野原副分団長(右から2番目)

4 月22日に、令和5年度「消防団地域貢献表彰」を受賞された美浜消防団の石丸正治消防団長と野原佐智夫副分団長が戸嶋町長へ報告するため来庁されました。

美浜消防団の受賞は初めてで、団員数を長年にわたり定員97%以上の充足率を保ちつつ活動を行っていることや、全国的に団員が減少している中、令和4年度新たに美し野区に新設し、消防団を増員したこと等が評価されました。

石丸団長は「町民の皆さんの防災意識が高く、長年にわたり行政や住民の皆さまにご協力をいただいたおかげで今回このような賞を受賞することができ嬉しく思っています」と喜びを町長に伝え、戸嶋町長は「全国の消防団が団員不足等で厳しい状況の中、団員一丸となって活動している証だと思える。近年、自然災害が頻発し、消防団の果たす役割は非常に大きいと感じており、今後の活動も期待している」と称えました。